

第59回

【地域別】

市民と市長のタウンミーティング 報告書



○期 日 平成27年2月14日

○会 場 けやきコミュニティセンター

武蔵野市

ま え が き

武蔵野市では、市民が自らのまちを自らの手で創りあげていく市民自治の基本に立ち、市民と行政が一緒にまちづくりを進めていくプロセスを大切にしたいと考えています。

そのひとつの手法として、市民と行政が「同じ目線」「双方向」で、地域の課題や市政全般について率直に意見交換を行う場として、「市民と市長のタウンミーティング」を開催しています。

この会には、地域のまちづくりの拠点であるコミュニティセンターを会場として、市とコミュニティ協議会が企画・運営方法を協議し、協働して実施する「地域別タウンミーティング」、「商店街の振興」、「災害に強いまちづくり」などのテーマを設定して、そのテーマの関連団体にご協力をいただきながら実施する「テーマ別タウンミーティング」、そして屋外において実施する「青空タウンミーティング」がごございます。

今回は、けやきコミセンにて、「これからのコミュニティ」をテーマに「第59回市民と市長のタウンミーティング」を開催しましたので、その結果を報告いたします。

今後も、様々なかたちで、皆様との意見交換を行い、市民が主役のまちづくりを進めてまいります。

武蔵野市長

邑上守正

概 要

1. 日 時 平成27年2月14日（土）
午後2時～4時
2. 場 所 けやきコミュニティセンター（吉祥寺北町5-6-19）
3. 主 催 けやきコミュニティ協議会
武蔵野市
4. 参加者数 48人（傍聴者含む）
5. 主催側出席者 市 長 邑上 守正
けやきコミュニティ協議会 代表 寺島 芙美子
市民部市民活動推進課長 北原 浩平
6. 司 会 けやきコミュニティ協議会 村井 寿夫
高田 昭彦
市民部市民活動担当部長 秋山 真弘
7. テ ー マ 『これからのコミュニティ』

目 次

1. 発言の要旨.....	1
(1) 開会のあいさつ	1
(2) 「これからのコミュニティ」をテーマにした意見交換（要旨）	
1. 防災について.....	3
2. 支えあうまちづくりについて.....	7
3. 地域で必要な人材について.....	12
4. 身近な課題について.....	19
(3) 閉会のあいさつ	22
2. 当日いただいたご意見と市の回答・対応方針.....	23
3. アンケートでいただいた感想	27

— 付属資料 —

第59回「市民と市長のタウンミーティング」ちらし

1. 発言の要旨

(1) 開会のあいさつ

【市長】

皆さん、こんにちは。本日はタウンミーティングにご参加いただきまして、ありがとうございます。寒いですね。

これまでさまざまな形でタウンミーティングを行ってまいりました。今日のようにコミセンの皆さんと共催で行う「地域別タウンミーティング」や、テーマを設けずに青空の下で行う「青空タウンミーティング」、環境とか子育てとか福祉といったテーマごとに行う「テーマ別タウンミーティング」がございます。

また、学生対象のタウンミーティングとして、亜細亜大学や成蹊大学の学生を中心にやったこともあり、さらに去年は、第五中学校の生徒会の皆さんとも行いました。事前に地域を回って課題を探っていただき、どうしたらいいかという提案を五中生からいただきました。その中のいくつかを、何とか実現できないかと思い、今、担当に投げかけているところです。このようなタウンミーティングをいろいろなところで重ねてまいりました。

私の原点は市民の皆様の声聞くことだと思っておりますので、これからもさまざまな機会を通じて皆様の声聞いて、ともに考えさせていただいて、課題解決に向かっていければと思っております。

今日は、けやきコミセンの皆様、お手伝いいただきありがとうございます。けやきコミセンさんとは今回で3回目の共同開催になります。最初に行ったのが平成18年11月22日、2回目が平成23年2月6日、そして本日が3回目の開催となります。ぜひ、皆様からテーマに関する様々なご意見やご提案をいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



【寺島けやきコミュニティ協議会代表】

皆様、こんにちは。今日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。けやきコミセンは空調工事と女子トイレの改修のため昨日まで閉館しており、なかなかタウンミーティングのPRもできなかった中、たくさんの皆様にご出席いただきありがとうございます。

けやきコミセンも、去年の12月16日で満25歳のお誕生日を迎えたところです。当初から地域に開かれた、ユニークで皆さんに愛されるコミセンを目指してずっと歩んできました。それも地域の皆様のおかげ、あるいは行政の協力のおかげでここまで歩んでこれたことを本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。また、新しい気持ちで取り組んでいきたい



と思っております。

さて、コミュニティ構想ができて 40 年ぐらいたつでしょうか。ここでこれからのコミュニティを考えたいということで「コミュニティを検討する会」が行われまして、その報告書の中に「地域フォーラム＝討議の場」という言葉が出てきています。

それはどういうことかといいますと、今まで地域の中ではそれぞれの団体が自分たちの活動をしてきたところですが、これからは横のつながりを持って、お互いに悩みや課題を共有しながら、時には行政、あるいは個人の皆様と地域の課題や問題を掘り起こして検討していくのがこれからのコミュニティではないかということでございます。けやきコミセンもぜひ地域の方々とお話してみたいと思っておりましたので、12 月に P T A、あそべえ、青少年問題協議会、大野田地域防災の会、福祉の会、それから緑町五丁目町会の方にお声かけをしまして、けやきフォーラムという名前で討議の場を設けました。そのときに出てきたお話の内容を、今日のタウンミーティングのテーマとして選ばせていただきました。

そこで、お話し合いの中から、まず皆さんが一番関心のある防災のテーマから始めたいと思います。この地域には、大野田地域防災の会という自主防災組織もありますし、もっとこの地域を防災に強い明るいまちにしていけたらいいと思い、ぜひ皆様の考えていることをお話ししていただきたいと思っております。また、これからコミュニティセンターの建物が避難所の一部を担うこととなりますので、そういうことも含めまして、ぜひ防災についてのお話をしていただきたいと思っております。

また、けやきフォーラムの中で 80 代の方と若いお母さんたちが一緒になってグループで話し合ったときに、80 代の方が「もう 80 も過ぎるとお買い物の荷物を持つのもつらいよね」と言ったら、若いお母さんが「それは言うてくだされば車で運びましたのに」とおっしゃったというあたたかい話も出てきており、ぜひ地域全体が子供から高齢者まで支え合うまちづくりができればいいと考えております。

それから、地域での人材育てというテーマですが、地域にはいろいろな組織がありますけれども、今、なり手がいないとか人材不足、それから同じ方が重複して役員に就いているといった課題があり、何とか地域で人材を育てて、いろいろな組織の中でつながっていければいいと考えまして、このようなテーマにさせていただきました。思う存分皆様からいろいろなご意見をいただいて、私たちのこれからの活動にも生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(2) 「これからのコミュニティ」をテーマにした意見交換（要旨）

1. 防災について

【ご意見】

北町三丁目に住んでいる。

コミセンが支え合いステーションになったと聞いているが、それによって方針とか指針が出て提示されたと思うが、はっきりした文書や指示書はあるのか。支え合いステーションには立派な自家発電装置ができ、停電になると電気がいつでもつくらしい。けやきコミセンには井戸もあり、井戸のポンプに電気が入れば、使うことができるので、ぜひ支え合いステーションのためのコンセントと蛇口をつくってほしい。

【ご意見】

私は西久保三丁目に住んでいる。今日のタウンミーティングも防災関係のテーマがあるということで、参加した。

我々が今一番関心を持っているのは、いわゆる関東圏での直下型大震災だと思う。市のほうでも地域防災計画を立てて、30年以内にマグニチュード7の地震が起こる確率が70%ということで、いつ来てもおかしくないということだろう。本来100%の計画ができ、対応できるということが望ましいが、そうはいかない。

それで、私は、初めて去年の総合防災訓練に参加させてもらった。いろいろ訓練をやった後で、意見はありますかということだったが、その中で見てみると、確かにいろいろな機械はかなり充実してきていると思う。簡易トイレをはじめいろいろな設備が整ってきている。ハード面はかなり整ってきていると思うが、ただ、運用面となるとどうなのだろうか。

市の地域防災計画では、避難民が2万人ということになっている。学校とかいろいろなところへ避難していけようが、その避難民を受け入れるやり方は一体どうなるのだろうかという質問が出た。

あと簡易トイレの組み立てとか、自家発電機器の運用をやるということになっているが、その訓練では何名できるようにするかというような具体的な目標を立てて、その人数分を確保しないといけないと思う。やってください、行ってください、希望者はどうぞ、というやり方では、毎年同じことをやっていて、具体的な成果があがらず、実際の役に立たないのではないかという気がする。

【司 会】

支え合いステーションの話と総合防災訓練の話がありました。市長にお答えいただく前に、今日、地域防災の会の方がいらしているので、お話をいただきたいと思います。

【大野田地域防災の会】

大野田地域防災の会の者でございます。本来これは市の防災課のほうからのお願いでなければいけないのですが、まずは、転倒防止とか耐震対策ということで、自分の身を守ってもらう。どうしても家が倒壊する恐れがある場合に避難所に避難ということになるわけです。



防災訓練

ですから、まず家の安全対策をやる。そして避難所に来た場合には、今度は市の職員だけでは人手は足りませんから、私達市民も一緒になってやるわけです。避難してくる方は、テレビであるように大変苦しい状況ですので、とにかく、みんなが一緒になって行動するという方向で避難所での活動をしていくことになります。

それから、避難訓練につきましては、先ほど言った防災器具についても、例えばこの場所では大野

田小学校と第四中学校については、防災トイレが市の方針によりまして下水道管への直結式で非常に清潔なものがあります。ですから、そういう面では武蔵野市の設備は非常に安全であるということでございます。

あとトイレの組み立て方についても、簡易型になっていますから、非常にわかりやすくなっています。だけど、知っていることと行動することは一致しません。そういう面では避難訓練のときにはぜひ多くの方に参加していただいて、一緒になって行動するという繰り返しを継続していくような形になるかと思えます。そういうことが一番みんなの安全・安心につながるのではないかと思います。

最後に、メンバーだけでは非常に人手が足りませんから、やはり避難民はお客さんではなく一緒に活動するというので、皆さんのご理解をお願いしたいと思います。

【司 会】

大野田地区の防災の話だったので、現場の話ということで伺いましたが、西久保とはまた事情がちょっと異なるかもしれませんけれども、引き続き全体の市の計画について、市長のほうからお願いしたいと思います。

【市 長】

本当に防災については皆様も関心の高いことだと思っています。先ほど、30年間で70%という話がありましたけども、実はもうそれは10年ぐらい前から言っているもので、確率はどうなっているか最近気になっています。確率は高まっていることに違いありませんので、地震は起こるのだという前提で、市も考えていますし、ぜひ地域の皆様もそのような捉え方で備えを進めていただきたいと思います。

まず全体の話をしますと、市内の避難所は小・中学校18カ所と都立高校2カ所を合わせて20カ所となっておりますが、その避難所の運営組織が全てそろっている状況ではなく、現在、10団体だけが組織されています。大野田小と四中も組織されていますので、この地元は大丈夫ですが、まだ全市的ではないので、その組織化を急ぐ必要があります。当然、各避難所には市の職員を初動要員として配置することになっており、各避難所に7名の職員が駆けつけることになっていますが、それをバックアップして、かつその後引き継いでいただく組織化をまずは進めていきたいと思っています。

また、組織ができているところではいろいろな訓練をしていただいております。避難所の開設訓練とか、先ほどおっしゃっていただきました防災トイレの組み立てとか、その団体の

皆様が主体的になっていろいろやっただけいていますので、ぜひその団体の活動に合わせて地域の皆様も参加していただければありがたいと思います。なるべく多くの方に知っていただけたほうがいいのではないかと思います。必ず地域の防災訓練では防災トイレの組み立てをやりますので、訓練に参加することイコール組み立てを知ることにつながるのではないかと思います。



また、避難者がどれくらいいるかということについては、想定では最大の地震の被害のときで3万人を超える人数となっていて、全てを収容しきれない状況にもなっています。どうなるかという、なるべく自宅で避難が可能な方、つまり自宅が壊れておらず、大丈夫な方は、あえて避難所には来ることはせず、在宅で避難を続けていただきたい。それをバックアップするのがこの支え合いステーション、コミセンではないかという位置づけをしております。

ます。

基本的にはそういうバックアップとして地域でできることについて、コミュニティ研究連絡会の方で地域支え合いステーションはどんなことが必要なのかをこの間議論いただいています。間もなく報告書が上がるのではないかと思います。それをもとに各コミセンでできることをもう一度確認していただいて、取り組みを進めていただきたいと思っています。基本は在宅者の支援、それから、コミセンというのは市役所と直結した防災無線があり、それを通じていろいろな情報がコミセンに入ってきますから、その情報をできれば地域の人に伝えていただきたい。そんな取り組みをぜひお願いしたいということです。

それから、もう少しお願いしたいのは、避難所ではなかなかケアが難しい方がいらっしゃるはず。その方々を受け入れていただけるような思いやりルームとしての機能が一つあります。また、帰宅困難者の方が歩いて帰っていく道筋にあるようなコミセンにおいては、休憩所としての機能です。例えば南町のコミセンは井の頭通り沿いにあるので、4年前の東日本大震災の際にもそういう取り組みをしていただきました。ですので、その場所に応じた何らかのプラスアルファの取り組みをしていただければということで、今後は各コミセンごとに、地域支え合いステーションの中身を検討いただくことになるのではないかと思います。

そして、けやきコミセンの災害井戸は、武蔵野市の井戸の一つです。武蔵野市は水の8割を深井戸からくみ上げており、全部で27本の深井戸があります。非常時など停電になったときにも水がくみ上げられるようにこちらのポンプには自家発電装置が取り付けられています。基本的にはこの井戸を動かすための発電機でございますので、その他はなるべく使わないほうがいいかもしれません。水は命の水でございますので、水を優先して、万が一余裕があれば、あるいはその井戸水を使う必要がなくなればその自家発電は活用できるかもしれません。一応非常時の水道用という扱いで、この地域の水道の水源として確保するための発電機ということで設置をしております。

【ご意見】

行政、地域、それから個人個人と立場がいろいろあるが、その必要性、あるいは重要性は十分認識しているつもりだ。ただ、実際の場面を具体的にしていくためには、例えば避難所受け入れの青写真を描き、こういう形で進めていくということをもっと明確に示して、誰かがやってくれるのではないかとすることがないようにしていただきたい。つまり行政としてはここまでやりますけど、この後は当事者間で話していただくことになりますよとか、その場合は骨折りましようとか、そういう質問が出たときに答えていただくことが重要ではないかと思う。

【市長】

ありがとうございます。まさにそのとおりでございまして、基本的なマニュアルは市でも用意をしております。避難所運営の開設のマニュアルですね。ただ、それは市の職員が全て最初から最後までやるようにはなっていないので、ぜひそれぞれの避難所運営組織の方と一緒にその地域にふさわしいやり方にバージョンアップしていきたいということでございます。今後そのやり方も含めて、大いに広げていきたいと思っています。

【大野田地域防災の会】

防災組織は非常に整ってきているのですが、市長のほうにお願いしたいのは、要するに防災組織だけでなく、全市民への啓蒙です。例えば生涯学習振興事業団の方とか、いざというときには体力のある方が避難所に来て、率先して垂範的な行動をとっていただきたい。ぜひそういうスポーツ関係の方とかにも安全や災害に対する準備、こういうものが、今、武蔵野市の防災計画としてあるというのをPRしてもらいたい。例えば今度10月25日は一斉の防災訓練です。そのときには市の行政の行事はできるだけ防災訓練に合わせるよう、スポーツの大会は自粛するとか、そういうように全市民的に向くようにぜひお願いしたいと思います。

【ご意見】

北町四丁目に住んでいる。今、女房が82歳と6カ月。7年8カ月前にすい臓がんの手術をして、今でも私が世話をしている。私も間もなく88歳になるが、去年の8月に市役所の近くのシルバーシティ武蔵野に入った。

今、震災のことが出ているが、震災はいつ来るかわからない。しかし、老いて年取って動けなくなるということのは、誰にでも必ず来る。そのときに一体どうしたらいいのか。すぐ入れる場所はない。あそこのシルバーシティの場合は1日1万800円。それから、西久保のほうにもあり、これは1日1万3,000円する。これは月別に換算したら大変な負担になる。こういう場合に、私どもはどうやって生きていったらいいのか。どうかそういうことを念頭に入れて考えていただきたいと思う。災害のことも全く同じだ。

【市長】

お話は、特別養護老人ホーム等がこの地域で少ないというご趣旨だと思います。市内にはいろいろな高齢者向けの福祉施設が増えてまいりましたが、増えているのは、民間の老人介護施設、いわゆる有料老人ホームですので、今おっしゃったとおりで大変費用が高いということはありません。高いけれども利用されている方も結構いらっしゃるというのがこの地域の実情ですが、介護保険制度にのっとった特別養護老人ホームの拡充というのは、課題だと思います。

ています。今、まさに介護事業を見直している途中で、4月から新しい制度がスタートします。この特別養護老人ホームというのは介護保険制度にリンクをしております、増やせば増やすほど保険料がどんどん上がっていくものですから、やたら増やすこともなかなか難しい状況ですので、そのベッド数を増やすことと、保険料を上げることのバランスを見ながら、今、最終的な案を考えているところでございます。ある程度は皆様も保険料としてご負担いただかなければいけないという中で、必要な施設はぜひつくるべきだという委員会の意見も出ておりますので、そのような方向で、最終的な取りまとめをしているところでございます。具体的には、西久保近くに特別養護老人ホームをつくっていこうという方向で議論が進んでおります。そこでも大体100床ぐらいになりますので、かなり拡充すると思いますが、それでもまだまだ足りません。

今後高齢者の人口はどんどん増えていきます。増えるということは、介護が必要な人口も増えていくということでございます。そこで、どんどん施設をつくれるかということ、なかなかそうでもないということで、施設もつくれるけれども、在宅での支援をもっと拡充していこうという取組みを進めております。施設の数は、ある程度限られてしまうので、在宅での介護がもう少し容易になる支援の仕組みをあわせて進めてまいります。なかなか一時に解決は難しいのですが、そういう動きがあるということをお含みいただきたいと思っています。



高齢者総合センター

また、あわせて災害時には、市内にあります高齢者福祉施設が全て高齢者の福祉的な避難所として協力いただくことになっておりますので、今は、定員いっぱいベッドが埋まっているのですが、何とか詰めていただいて臨時的なベッドを確保して、ある程度収容させていただくというようなことで協定を結ばせていただきますので、福祉的な避難所として協力いただけたらと思っています。

2. 支えあうまちづくりについて

【ご意見】

私は大野田福祉の会に所属していて、その中で居場所プロジェクトを担当している。ひとり暮らしの高齢の方や、子育て中の小さいお子さんを持ったママさんとか、そういった方々に働きかけをしていきたいということで始めた。

毎週火曜日、11時から3時まで北町四丁目にある日比野さんのお宅をお借りして、ご自宅を開放していただいてやっていて、もう6年ぐらいになる。近所のひとり住まいの方がお話をしに来る。テンミリオンではサロン活動とかをしていて、ダンスや体操をしようとか、いろいろプログラムを組んでされているようなので、最初私たちもそういうことも考えた。しかし、私たちはお茶とお菓子、それからお昼も楽しくみんなで作ったりしながらうっとお話をして過ごしている。充実した1日を過ごして次の週をまた楽しみに帰っていかれる。

それを機に、緑町一丁目のグリーンパーク商店街の中でもやっていて、事務所の若い方が金曜日の11時から3時まで場所を貸してくださっている。そこには本当に通りすがりのお買

い物帰りの方とかも寄っていただいているし、子育て中のママさんたちが乳母車を押しているところを、「どう、ちょっとお茶飲んでかない」なんて言うのと寄ってくれて、楽しんでる。だから、本当に地域の中で顔見知りをつくさんつくるといことが大事なんだなと思いがら活動している。

おかげさまでそれで私自身もお友達がたくさんできたし、楽しく日々を過ごさせていただいている。

【ご意見】

ひとり暮らしの高齢者の方で、今のような活動をなさって本当に素晴らしいと思う。一方で、ひきこもりであるとか、あまり周りの方と接触したくない高齢者の方でなかなか自分からつながっていかないという方もいて、孤独死などの事故が起こると思うが、そういう方を見つけていって、探して命をつないでいく、生活をつないでいくということが行われているのか、そして成果が上がっているかを教えていただきたい。

【市長】

武蔵野市では今、単身世帯が多くなっています。7万世帯のうち、実は約半分が単身世帯です。若い人の単身世帯はよしとして、高齢者の単身世帯が本当に増えてきているので、ますます地域での見守りネットワークが不可欠ではないかと思っておりますが、ご指摘のとおり、あまりそれを望まない方も結構いらっしゃいます。例えば「ひびのさんち」とか、開放いただいている「みどりの縁がわ」とか、そういうところは誰が来てもウエルカムなのですが、そこまで足をなかなか運ばないという方がいっぱいいるので、あまりコミュニケーションをおとりにならない方をどうやって地域で支えられるのかというのが、課題です。

どうしたらいいのかわか難しいですが、つまり出張っていかないとつながらないということもあるので、今、いろいろな方をお願いをしています。例えば民生委員なり、地域福祉の会なり、皆さんをお願いをして、なるべくアプローチをして、その人と接触を図っていただきたいとお願いしておりますので、まずはそういうパイプをつないでいくということが必要ではないかと思っています。恐らくこの北町地区、けやきコミセンを中心としたところは結構ネットワークがありますので、地域福祉の会の皆さんも様々な活動を通じてたくさんの方を連れて来ていただいているので、そういう活動をまずは広げていただく必要があろうかと思っています。



一方で、孤独死の問題は市としても課題として捉えておりますので、庁内にもその研究プロジェクトチームで検討を進めているところです。そういうところでの研究を深めながら、どのような見守りがより一層拡充できるのか、引き続き検討していきたいと思っています。

【ご意見】

緑町から来ました。大野田小学校PTAをしています。

「子どもから高齢者まで支え合うまちづくり」ということで、今、地域の方、福祉の会とかコミセンの方々がいろいろな行事とか学校と関連したイベントなどをされ、顔見知りをつ

ることができるような環境を整えてくださっている。保護者としては本当にすごく感謝をしていて、子どもと一緒に給食を食べる日があったり、どんど焼きなど、いろいろな行事を通じて地域のお年寄りの方とか、活動されている方と顔見知りができてきている。仲よしになれば道端で会っても挨拶ができたり、もし何かつらそうだったら声をかけたり、そういう関係もどんどんできてくるのかなと期待している。

ただ、学校の中での行事に関して言えば、先生方がすごく大変そうである。余裕がない状況で、大野田小は特に子どもが増えていて、1・2年生が4クラスもある。今まで通常3クラスだったが、今度3年生に上がる時に3クラスになるかもしれないぎりぎりのラインである。ぎゅうぎゅうの3クラスがいいか、すかすかの4クラスがいいかというところで、どっちにもメリットもデメリットもあるので何とも言えないが、やはりクラスが1つ増えることによって担任が1人必要になってしまう。3クラスにすれば、それは先生の数が少なくて済むのだが、その分、目が行き届かないとかいうこともあり、そうすると保護者に対する対応もおろそかになってくるということがあって、学校の中のことに對して、行政としてもうちちょっと余裕を持って先生方がお仕事できるような環境をつくっていただきたい。

あと保護者のほうも、地域の行事等に参加する余裕のある方がいいが、やはり仕事が忙しいとか、子どもの面倒を見きれない方も多いから、行政として、例えばひとり親とか何かご家庭に問題を抱えている保護者の方に対する対策を充実していただければ、もうちょっと親が余裕を持って子どもをコミセンなり遊びに連れていけるような時間とか心の余裕ができると思う。学校と家庭に対する行政の力添えをよろしくお願いしたい。

【市長】

まず、クラスの人数については、これはもう決まっている話で、例えば小学校1年生、2年生までは35人学級が実現できていますので、36人になった時点で2つに分かれます。どちらがいいかという、できれば少人数で見ていただいたほうがいいのではないかと、教室に余裕があったほうがいいのではないかとと思いますが、全体としては子どもの数はある程度いたほうがいいのではないかとと思います。特に中学生になると、ある程度ないと部活ができないとか、そういうことになってきますので、学校の規模としてはある程度の人数が必要ですが、クラスの人数としてはなるべく少なめのほうがいいのではないかとというのが私の個人的な考えです。

個人的な考えというのは、市長はあまりそこに声を出せないのです。決定権も何もございませんので、感想程度を教育委員会に言いますが、なるべく子ども一人一人が見られるような体制がぜひ必要ではないかと思っています。

学校の先生は忙しそうですね。学校の前を、夜中通っても職員室の明かりがついていたりします。今までもそうだったと思うのですが、事務作業とか、教材づくりなど、最近一層忙しくなったと言われているので、行政側はパソコンを入れ、少しでも先生方の事務の軽減が図れるよう支援しています。逆にパソコンが入ったために事務作業が増えたと言われるかもしれませんが、少しでも事務の効率化を図ることによって、なるべく先生が子どもに向き合う時間を増やしていただければと思っています。

また、行事については、子どもの数が少なくなっているため、学校の先生の数も少なくな

で全部しなくてはいけないというのが一番恐ろしいことなのだろうと思う。いかに仲間をつくるかというところが一番大事にもなってくる。コミセンもそういうことが大好きだし、そういうことに関わりたい。みんなと一緒にやりましょうというところが一番大事なのだろうと思う。

ただ、活動の内容自体はみんなで平等にしておきながら、名前だけはどなたか代表というのをつけなくてはいけないので、グループをまずつくるとするのがとても大事だろうと思う。そういうのも、支え合うまちづくりの中の一つなのかなと。市のほうでも「何人グループになりましたら声をかけてください」「どこどこには広報します」みたいなことができたり、場所はこういうところがあるのかが見えてくると、準備しやすくなるのではないかと思う。そういう意味ではけやきコミセンがとても大好きな行事かもしれない。多分大野田小学校の中の父兄にも、楽しいことが大好きな人がいる。

【市長】

運動会のほうは1人ではできませんよね。これからいろいろ声をかけていただき、例えば実行委員会などを組織すれば団体になりますから、団体ができれば、公的な施設も借りやすいと思います。まずはコミセンでご相談いただくといいかもしれません。



市内では、幾つかの地域で運動会を実施しておりますが、例えば伝統的には関前地区ですと、関前南小で40回ぐらいやっています。地域の皆さんの手づくりの運動会で、参加者も多いです。第二小学校地区もやっています。それから、境南小地区も、昨年ぐらいから、これはまだまだ人数が数十人ぐらいしかいないのですが、そういう前例がありますので、場合によったらそういうところでの運営の仕方をぜひお聞きいただければ参考になるのではと思います。

【寺島けやきコミュニティ協議会代表】

本当にいいご意見、聞かせていただきましてありがとうございます。私個人としてはすぐやってあげたいと思っているのですが、そういうお話がありましたら運営委員会で話し合ひまして、いいということであれば、大野田小学校には団体登録もしておりますので、けやきの名前で借りることもできます。もしよろしければご相談ください。

【ご意見】

支え合うまちづくりのところで、支え合うために、例えば自分より下の年齢の人に対しては、通過してきていることなので支え合いやすいとか想像しやすいが、なかなか高齢者のことを支え合うというところになると、高齢者の方にどんなことをしてあげられるのか、自分の持っているスキルの中で、必要になるものは何なのかとかいうことをすごく悩んでしまうときがある。仲よくしておけば、困っていることがあればむこうからお願いしてきてくれる。例えば病院まで送ってと連絡が来たりするが、継続して寄り添うというか、そういう具体的な中身もうまく発信して理解し合えるようになると支えやすいのかと思う。

それと、個人情報保護法というのもあり、隣にどんな人が住んでいるのかということがち

よっとわかりにくくなっていたり、この子がどこに住んでいるのかなというようなこととかも、同じ学校内においても情報がわかりにくくなっているがために、やさしくし合えなくなっているような気がする。

やはりそういうところの無駄になるものを少しずつ排除してもらわないと、防災のこととかについても、相談し合う関係にたどり着くまでに少し時間がかかるのではないかと感じているので、その辺について、取っ払えるような案があればいいなと思っている。

【市長】

地域での支え合いということを考えるときには、前提はコミュニケーション、コミュニティではないかなと思っています。いきなり知らない人に何を支えていいかわからないですよ。まずはどういう方かということを知った上で、こういう方だったら私はこういうお手伝いができそうだなということを知るのが支え合いになってくるのではないかと思います。その逆の立場もありますね。そういうことが支え合いではないかと思しますので、地域での支え合いというのは、やはりコミュニティ、コミュニケーションをいかに醸成していくかということが大切ではないかなと考えます。

【ご意見】

北町四丁目に住んでいる。

先ほどからのプライバシーのことについてだが、結構資源回収をすると無理なく地域のことがわかるので、私は市長さんに全市的に資源回収でごみを集めてくれるようにしてほしいと思っている。20世帯ででき、みんなが無理なく目の前の通りだけやればいいので、そうするとプライバシーもそんなに関係なくて、あとは民生委員とか市の方にやっていただくので、資源回収という方法は私は全市的に取り上げてもらったら、地域がすごくよくわかると思う。

【市長】

地域を何でつなぐかというようなヒントをいただいたと思っています。どの家庭でもごみというか資源を出しますよね。なので、地域をつなげる要素に大いになり得ると、今、感じました。

もう一つは、子どもというのはすごく地域をつなげます。子どもの関係でいろいろなご家庭と知り合いになる。その知り合いがまた知り合いになるということで、子どものつながりというのも一つの方法だなと思いますが、地域のいろいろな資源を活用してつなぐということが、その地域のコミュニティを育てていくと思います。まさに資源回収ですね。集団回収についても、そういう視点もあるなということを改めて認識しましたので、今度機会がありましたら、そういうことは大切だということを書いていきたいと思っています。

3. 地域で必要な人材について

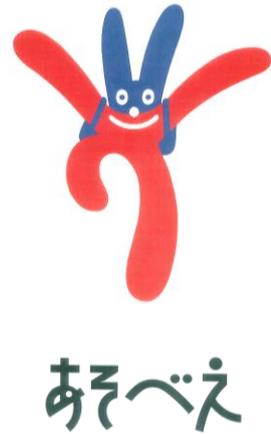
【ご意見】

私は、けやきコミセンに関わるようになってから、あそべえの企画運営会議に入ったりしている。

以前は人前でしゃべるということは全くできなかったが、コミセンに来てから、人前でしゃべるようになって、関わっていくことで、身になっていくことを実感した。半強制

的な言い方では本当はいけないが、地域に関わることを皆さんがしていただけるようになると、災害のことにしても高齢者のことにしても、障がいのある人にしても、やさしくつき合っていくノウハウをもらうことができるのではなかろうかと思っている。

私のところには3人子どもがいるが、一番下の子に若干障がいがある。それまでは全く障がいのことについては考えることがなかったが、障がいに気づくまでというプロセスというのを、子どもを持ったときに既に欲しいものだと思っている。今、私は保健センターと関わることがあまりないので、現在の保健センターでどのような仕組みで関わりを持てるようになってきているのか、お母さんたちにどんな情報を与えることができているのかということが非常に関心のあるところである。そういうおせっかいな人を地域の中に増やすことで、やさしいまちづくりとか支え合うこともできていくのではないかと思うので、おせっかい養成所をつくっていただけたらと思う。



【ご意見】

今回、大学と地域の関係について聞きたいことがある。今、中央の商店街のほうで、武蔵野美術大学と提携してお祭りをやるということを市のフェイスブックで流されている。こういった地域と大学生と我々住民を結ぶ取組みについて伺った。あと本日のようなタウンミーティングを大学のほうではどういうふうに広報されているか。地域に関わりのある大学生がこの地域活動に関心を持ってもらうのがまず第一歩だと思う。実際大学生のほうもバイトがあったり試験があったり勉強で忙しいとは思いますが、地域活動ができるところを支え合うということで、そういった取組みについてご説明いただきたい。

【市長】

まず地域への参加というのは、もちろん地域にとって望ましいことで、今、高齢者計画をつくっているのですが、その中でも地域参加が健康あるいは介護予防につながっていくということを掲げています。だから、高齢者の皆さんは大いに地域参加しましょうということを、高齢者福祉計画の中で掲げています。

そして、前段でもご意見がありましたけども、まさに地域参加というのは人生の学びの場ですよね。私も地域で育てられたのではないかと思います。コミセンの協力員をやったりとか、あるいは父母会活動をやったりとか、そういうことでいろいろ地域とのかかわり合いを学び、育んできたので、地域への参加というのは、これは地域で生きていく以上不可欠ではないかと思うのですが、なかなかそれが広がっていかないという課題があります。

どうしたらいいかというのは、ぜひ皆さんと意見交換を進めたいところなのですが、昨日、市役所で、青少年問題協議会という会議がありまして、その中に杉並児童相談所の所長さんが来られていました。今、非常に児童相談の現場が厳しい状況になっていて、いろいろな課題を抱えた子が多くなっているそうです。子どもだけでなく、課題を抱えた家庭が増えているということで、所長さんが言うには、もっと地域でおせっかいの力を出していただきたい。キャンペーンのワッペンみたいなものを持ってこられて、おせっかいと書いてあるのです。それをぶら下げて、私はおせっかいしますよということで地域に出張っていただきたいとい

うようなことをおっしゃっていました。ですから、隣は何をする人ぞではなくて、何かあったら「どうしましたか」と一声かけていただくことでつながりが育まれていくのではないかと思います。児童相談所は大変な状況なので、その地域の力にもっと期待したいということもおっしゃっていました。



それから、大学と地域の関係は、今、私どもも関心を持って取り組ませていただいています。市は市内にある2つの大学、成蹊大学と亜細亜大学と包括連携協定を結んでおります。要するに、何かできることがあればお互い力を出し合おうということです。

防災にしる、あるいは地域のイベントにしる、こちらから頼めることがあれば頼んでいき、学校のほうも市にお願いしたいこと、地域にお願いしたいことがあれば、それを大いに頼みやすくしようという関係を緩く広く掲げているので、今後いろいろな場面でそれを利用して、大いに学生さんたちを引き出していきたいですね。まさにこの地域参加が出会いとなって、大きな力になっていくのではないかと思います。中央地区で、今、商店街が武蔵野美術大学の学生さんを巻き込んでいろいろやっております。これもちょっとある縁がきっかけとなって、学生さんも興味を持ってプロジェクトに参加しております。緑町一番街で商店ごとにいろいろな明かりをデザインして、それを見て回ろうというすばらしいプロジェクトも、進行中であります。学生さんと一緒にやるということは、やる側も何かすごく元気が出ますよね。若い人とやるってことはすごく力をもらえるので、ぜひこれから成蹊、亜細亜に限らず、いろいろな大学の学生さんが、武蔵野市に興味を持って来ていただいているので、そういう学生さんたちを地域に引き込むということを各コミセンでもやっていただくといいのではと思います。

【寺島けやきコミュニティ協議会代表】

成蹊の学生さんとはとても仲よくやっています、成蹊の教授さんが2名運営委員になってくださったのが最初のきっかけで、そのゼミの学生さんを連れてきてくださったのが始まりです。けやきコミセンは学生さんも大事にされていて、最初のころは食べるもので誘いました。それでけやきコミセンのことが皆さん好きになり、けやきコミセンと連携を持ちたいということで、わざわざ地域交流会というクラブ活動を立ち上げてくださったんです。その地域交流会のメンバーが、今、運営委員にも来てくださっていますし、それからボランティアのUniというグループがあるのですが、その方たちもお祭りのときにはいろいろ参加して、夏祭りにはお化け屋敷をやってくさったり、けやきまつりには東北支援の方々が災害のパネルを見せてくださったり、物を売ってくださったりという、そういう活動を通して交流しております。

それから、昨年1年間、学生さんたちがコミュニティセンターを知ろうということで全てのコミセンを訪れました。それでコミセンの方たちと何かしたいねということで、つい2～3日前に学生さんたちが来て、亜細亜大学と成蹊大学と明治大学の方たちでけやきコミセン

とギネス飯に挑戦して巨大桜餅をつくりたいという提案があり、何とか協力していきたいと思っています。学生さんたちとは一緒にいろいろやっておりますので、けやきコミセンに関しては安心してください。

【司 会】

けやきコミセンの場合は成蹊大学に近いのですぐに声をかけることができます。例えば、けやきまつりには、必ず何人かは参加しております。他のコミセンでもいろいろな活動をやっている方がいると思うのですが、成蹊でようやくボランティアセンターができたので、そこに行って、例えば今度こういうことをやるから、何人か学生のボランティアが欲しいんだけどと言ってみてください。応じてくれるはずですよ。

それからもう1つは、ボランティアセンターとは別に、さっき寺島代表がおっしゃったU n iですね。U n iというのがボランティアセンターより先に出てきた学生団体で、何と2、300人会員がおりまして、それで地域交流に関する活動をする会員は60人ぐらいいるはずですよ。もっともすぐに動くというのはなかなか難しいと思うのですが、そのU n iや、成蹊大学ボランティアセンター等に声をかけてみてください。

また、市長に聞きたいのですが、例えば市役所で何かやるというときにそういうボランティアが可能ですので、例えば青空市など、市のいろいろな催し物の中で、学生ボランティアが参加できるものを教えてください。

【市 長】

もう既にいろいろなイベントに学生の皆さんの力をいただいています。西部地区でも、例えば武蔵境ピクニックには亜細亜大の皆さんに参加していただいているので、もう普通にかかわっていただいていると思いますが、もっともっと来てほしいと地域の方はおっしゃっています。成蹊大学の学生の皆さんも西部地区へ来られてもいいと思いますし、もう少し商店街などにも働きかけて、もっと若い人と一緒にやろうよということを書いていきたいと思っています。



武蔵境ピクニック

【司 会】

商店街と一緒にやるというのは今もあります。例えば、学生団体のU n iが土日にハモニカ横丁で赤いジャンパーを着てガイドをしています。本日、商店街の関係者の方もおられると思いますが、どんだんいろいろなところに呼んでいただきたいと思っています。

【ご意見】

今の話で、気になったことがある。あつたかまつりというのがこの中央エリアではもう十数年続いていて、最初は障がいを持つ方と支援者とのお祭りということで市内のいろいろなところでやっていたが、障害者福祉センターが中心となってこの中央地域でやるようになり、3年前からは大野田小学校でできることになり、それだったらぜひ学校の保護者の人たちにも主体的にかかわってほしいなという思いがあって、実行委員会に顔を出して3年になる。

あつたかまつりにも、ずっと前から成蹊大学のU n iの方や武蔵高校の生徒も参加してく

れている。とても恵まれていることだと思っているが、昨年実際にいろいろなことを一緒にやってみて感じたのは、ボランティアを受け入れる側のお作法とか心構えがとても大事なと思った。商店街とか、いろいろな場所でボランティアの学生の参加を募った際に、一緒にやるという気持ちをお互いに持たないといけない。単純にボランティアを使うとか使われているとか、そういう関係では、この地域で自分たちのやりがいを見つけて、これからも関わっていきたいと思える人が育ちにくいので、そこはお互いに気持ちの一つにすることが大事だなと思ったので、ちょっと発言させてもらった。

【市長】

地域も気をつけないといけないのは、ボランティアは単なる作業員ではないということですよね。だから一緒に楽しもうというスタンスで呼びかけるべきではないかと思えますし、参加していただく学生の皆さんたちもそういう形で地域の一員になるんだということで参加いただければ、より良いのではないかと思っています。

【司会】

地域に参加するというのは、学生にとってはとてもいいことなのです。本当に視野が広がりますし、だからぜひ進めていきたいと思っています。僕は武蔵野地域研究という講義を持っているのですが、各団体などにボランティアに行くことを一つの条件にしていまして、どんどん行かせております。

【ご意見】

木の花小路公園の生きものばんざいクラブの仲間づくりをしている。クラブももうかなり年を重ねて会員も高齢になってきて、公園のお掃除や管理も大変なので、成蹊さんのボランティアクラブの方をお願いして、若い方の力を借りている。

今日も来てくださって、ボランティアだから働いてもらおうという感じではなくて、仲間づくりすることに力を入れてやっている。今日も皆でチョコレートケーキなどをつくり、学生の皆さんとも交流をさせていただいている。

【司会】

今みたいなご意見のように、単に一緒にやるだけでなく、学生と終わったときに交流して、そういう機会に食べ物があると、学生ももう一回来ようかなと思うのではないかと思います。

【ご意見】

地域に必要な人材育てについての感想だが、私も幾つかの地域に関わっていて、このけやきとか大野田地区の青少協のあり方とか地域社協のあり方を見ていて、役員のローテーションを守るのがしっかりしているなど思っている。

人材を、次誰にしようというのはすごく探しにくいとは思っても、そのことによって固定化されていない。あるところだと、例えば青少協の委員長を10年間ずっとやっていたりして、どうなのか聞くと、人材がないということらしい。しかしローテーションをしっかり決めていると、いろいろな人がそれに関わることができて、非常に人材が育っていると感じる。良い悪いというのはいろいろあるとは思いますが、そういった意味では地域社協などのトップも2年までとか、短い期間だからその間しょうがないかというような気持ちもあって受け入れやすいのかなというのもあり、人材のローテーションというのはとても大事だなと感じ

じる。

また、他の地域の小学校でおやじの会というのがある。関前南や千川でもできて、大野田にはできなかったが、父親が出てくると、いろいろな地域の活性化になって、非常によろしいのではないかとは思っている。

【寺島けやきコミュニティ協議会代表】

そのローテーションというのは、任期を設けているということですよ。いろいろな方にやっていただければ人の関係もまた変わってくるし、内容も変わってくるということで、やはり任期は設けるべきだと思っています。

私の方で、1つ言いたいのは、今、PTAの任期が1年だけなのです。せっかくいい人材がいながら1年でみんな交代してしまうのです。やはりPTAは学校のため、子どもたちのためにあると思うので、何かをやりたいということを考えていくには任期は2年、一番いいのは3年ぐらいかと思います。ですから何とか、会則の任期を改正していただけたらと、PTAに関してはそれを言いたいと思います。

【市長】

PTAの話はちょっと市長からは言えないのですが、ただ、なかなか1人が長くやるというのも大変という面もありますよね。なるべくだったら役員はちょっと重なりながら、少しずつかわっていくような形がいいのではないかと思っています。私は境南コミセンの協力員もやっていましたが、役員は3年でした。協力員はずっと長くできますが、役員は3年なので、割と新しい役員体制が維持できていると思っています。そういう中でも次のなり手がいないと言われるので、いろいろ課題が出てきます。だからその地域にとってやり易いやり方を探っていただければと思っています。

【ご意見】

緑町二丁目に住んでいる。

地域の人材についてだが、武蔵野市の児童青少年課でも中高生リーダー講習を毎年やっていて、そこにはすごくたくさんリーダー講習を受けた中高生がいる。むさしのジャンボリーのリーダーとして行くというお子さんたちもいるし、他には保育園で研修をして、場を踏んでいるお子さんもいるので、ぜひ中高生も防災などで役立てていただきたい。

大学生はここで地域の活動を知り、ご自分たちの地元に戻ってまた花を咲かせていただければいいとは思っている。中高生ですとまだ地元にいるので、自分たちの地域を自分たちで守るという責任感もあると思うので、生徒という位置づけで、商店街でもいろいろな場面で役立てていただきたいと思う。

【市長】

このところ、商店街でも中学生を呼んできて一緒にイベントを手伝ってもらったりしています。今日の最初の議題に戻りますが、防災の面で地域に一体誰がいるかということ、元気な男性陣は昼間は都内に行ったりしていますが、中学生は学校にたくさんいます。なので、中学生の力をもっと地域で活用しようという考えがあります。災害時の避難行動支援体制を検討する中では、小中学生は義務教育の範囲なので、この計画には入っていないのですが、私としてはもう少し中学生の力を頼ってもいいのではないかと思いますし、地域の重要な構成

員だと思っています。

高校生、大学生はどうかというと、なかなか微妙です。例えば何か震災を受けたとき、高校生は高校のある地域の支援をすべきなのか、あるいはすぐ自分の自宅に戻って、何かやったらいいのか、ちょっと考え方が分かれるのですが、私は高校生は、自宅に戻って、その地域のいろいろな支援をしていただければいいのではないかと考えています。

大学生は大学単位で、あるいはサークル単位で、何かあったら地域のためにみんなで手伝おうといったことも考えていただければありがたいと思っています。成蹊大学や亜細亜大学と締結した包括連携協定の中でも防災の支援という形で、これから具体的な協議をしていこうとしています。大いに学生の力を考えていかないと、地域の住民登録してる人だけではなかなか対応できないと思っていますので、今後学生の力を大いに活用していくことをもっと考えていきたいと思っています。

【ご意見】

私は現役大学生で、市内に住んでいるが市外の大学に行っている。例えば成蹊大とか亜細亜大みたいに地域の大学に通っている大学生は地域とコミュニティをつくれるが、市外に通っているとなかなか活躍の場がなくて、コミュニティが築けないというのがあって、私は参加したくても、なかなかそういう場がなくて疎外感があってさみしいと思っている。もし成蹊大学の方とか亜細亜大学の方が何か取り組むなら、市内の大学生全体にも呼びかけたり、もっと市内の大学生に活躍の場をつくってほしいと思う。

【市長】

実はそのご意見、他のタウンミーティングでもいただきました。西部コミセンでやったときにたまたま大学生がいらして、参加したいんだという発言をされたら、早速次の日からコミセン側に呼ばれて、いろいろなイベントにご協力いただいているようでございますので、ぜひこの後コミセンの代表にご相談ください。ちょっと顔を出していただければ大いにつながるし、ぜひあなた自身のネットワークでこの地域にお住いの学生さんなども一緒に巻き込んで、いろいろなイベントを盛り上げていただきたいと思います。よろしくお願いします。



【ご意見】

緑町二丁目に住んでいる。

地域で必要とされる人材とはちょっと逆になるが、市民に必要とされる地域って何なのかがもうちょっと明確にならないと、逆に地域で必要とされる人材って何かがわからない。個人的には、先ほど市長もおっしゃった防災がやはり一番興味がある。例えば阪神淡路大震災のある本に書いてあったが、避難所で大人が一生懸命いろいろなことを言ったり、行政の人が一生懸命言ってもトイレ掃除もろくにできなかったのに、子どもたちが新聞をつくって、そこにみんなで順番にトイレ掃除しようとか、水はまず赤ちゃんからあげようとか、子ども

が書いた新聞を見て啓発されるということがあった。

今は平常時なので、地域で必要なのはコミセンではなくてコンビニだと僕は思っている。要するに市民にとって地域は何なのかというので、もっといろいろな議論が回っていかないと、その地域で必要な人材というのは出てこないのではないかとというのが、僕が今の議論を聞いて思ったことだ。

【市長】

その人の人生、生きざまがどうなっていくのか、どう考えていくのかに関わってくるのですけれども、私としてはその地域に住む以上、地域と何らかの関わり合いがあったほうがより豊かな人生につながっていくのではないかと考えています。

それで、もちろん防災も必要ですが、防災だけのために、その時だけ集まるというのではなくて、いざという時の力は日頃からのコミュニティ作りに関係があるのではないかと考えます。コミュニティを育むことが、防災にも力を増していくのではないかと考えますので、もちろん防災は大切な取り組みかもしれませんが、そのベースとなるコミュニティもより一層大切ではないかと考えています。

【ご意見】

第四中学校で、昨年、副校長先生が2年生だけでも防災教育をしたいという意向があり、授業として、消防署や市が子どもたちに防災訓練を行った。非常に子どもたちは生き生きとして覚えてくれて、いざという時には頼りにしているよと伝えると子どもたちの目が光っていた。このようなことを市全体でやっていったらものすごく盛り上がるし、実際に安全安心につながるのではないかと考える。

【市長】

今、いろいろ仕掛けをしまして、四中さんでもやっていただきました。一中、あるいは二中でもそういう取り組みをスタートしていただいていますので、徐々にそれが広がっていけばと思っています。

4. 身近な課題について

【ご意見】

吉祥寺南町三丁目に住んでいる。

空き家の問題があり、近くに何十年と空き家状態になっている家がある。そのお宅がかなり大きなお宅で、どこへいらっしゃったかもわからない。それで、放置された竹やぶに雪が降ると、隣に雪が落ちてきて、その落ち葉が四方八方に舞い散る。みんな何十年と困っていて、今年、市の環境政策課へお願いしてみたが、市から手紙を出しても返答がないということで、結局どうしていいかわからないようだ。

竹やぶだけではなくて木もいっぱい道路のほうに覆いかぶさってどうしようもないので、道路にはみ出ているところは切っただけでいいが、そういうのはどうしたらいいのかお尋ねしたい。

【ご意見】

緑町二丁目に住んでいる。

私が住んでいるのは大野田の学区ではないので、学区変更をして大野田小学校に子供を通わせている。地図を見るとわかるが、緑町三丁目は大野田の学区だが、今の都営と武蔵野ギャラリーというマンションがあるあたりは千川の学区になっている。知り合いに聞いたところ、子供が増え過ぎるのが困るからという行政的な線引きによって、もともとその公団住宅は大野田の学区だったが、都営とJRの社宅は千川の学区にしたという話を聞いており、ギャラリーというマンションには今、子どもが大勢いて2クラス分ぐらい大野田に学区変更しているそうだ。

また、私たちは協力しているはずなのに、一部の保護者にマナーの悪い方がいて、学校は基本的に自転車に来てはいけないのだが、学区変更して自分が遠くから通っているから自転車で行っていいとか、自分は学区外から通っているから地区班のお手伝いができないとか主張する保護者がいて、迷惑だから学区変更しないでほしいと言われた。でも、子どもは歩いて通うので近いほうに通いたいという希望がある。ギャラリーも大きいので、大野田に近い人もいるから一概に線を引けないが、適用について余り杓子定規にやられると困る部分もある。

保護者としてのマナーを守りましょうというのは別問題として、行政としては学区変更する際に、4種類の要件があるが、そのうち一個でも引っかかっていたら学区変更を認めてくれることになっているので、距離的に大野田がいいということに対してはちょっと柔軟に対応していただきたいという願いがある。

【市長】

空き家の問題は、もう一度場所を教えていただいて、再度確認をしたいと思います。

一般論から言うと、なかなか今の法律で対応しきれず、手が出せない状況ではありますが、今、法律改正の動きがあります。全国的に空き家問題として、大変老朽化して課題となっている空き家がたくさんあり、それを改善できるという法律改正に向かっておりますので、それもにらみながら市としても対策を考えていきたいと思っています。安全がやはり第一だと思いますので、安全の視点で取り組んでいきたいと思っています。

それから、空き家問題というのは武蔵野市の場合、住める家が実は空き家のままあるという、もったいない状況でもあります。全体的には約1割ぐらいは空き家であろうと言われておりますので、住みたいまちと言われながら、場所があるのに使えないということもあります。また高齢者のひとり住まいに関しては、大きなお屋敷に住んでいてなかなかバリアフリーじゃないので住みにくいということもあって、そういう方に家を貸出させていただく制度もあります。この制度は例えばバリアフリーのマンションなどに高齢の方がお住まいになって、代わりにそのおうちを提供していただいてファミリー層に貸し出すというものですが、なかなかそれがうまくマッチングしていない状況です。自分の家を他人に貸すのはどうかと悩まれることもあるでしょう。しかし、そういうことをやりながら、空き家の有効活用、安全な利用に向けていろいろ工夫をしていきたいと思っています。

それから、学区の問題ですが、今ある学区を変更するというのは、これは大きな課題があります。今のままでいいという方も多分いらっしゃると思いますので学区を変更することは難しいため、教育委員会でしっかり議論いただかないといけないのですが、学区の線引き自

体は杓子定規でやっているわけではなく、今までのいろいろな経過や、児童数の学校間のバランス等を加味しての話だと思います。例えば、今後桜野小学校の児童数が増えて、さらにもう少し増える可能性もあり、満杯状態になっています。そういう時に、少し学区を変更して、例えば、少し二小地区に行ってもらうとかはあり得るかもしれません。

またあわせて、これから学校の建てかえ計画を進めてまいります。大野田小と千川小は立派な校舎だと思っていますが、それ以外の学校は建てかえないといけない状況になっていますので、その時にどういう学区割にするのか。今のままでの建てかえにするのか、あるいは生徒数、児童数が減っていく中で、小中の連携、小中一貫教育なども含めて議論し、その学校建てかえを考える。またその際に、学区はどうしたらいいか議論されるべきではないかと思っています。それまでの間は、極めて柔軟な幾つかの条件があって、条件に見合えば教育委員会のほうで指定校変更を認めるということになると思いますが、できれば定められた学区をなるべく尊重して行っていただいたほうがいいのではないかと、個人的には考えております。

(3) 閉会のあいさつ

【寺島けやきコミュニティ協議会代表】

皆様、今日は本当にありがとうございました。幾つかテーマを提供させていただきましたが、それぞれ、皆様からいろいろご意見をいただきましたので、私たちの活動に役立てていきたいと思っております。

それから、私たちは人と人のつながりを大切にしながら、コミュニケーションをとりながら、人のつながりをとることによっていろいろなことに役立てると信じておりますので、これからもそのような活動をしていきたいと思っております。

また、ハード面につきましては行政に任せるとしましても、ソフト面につきましてはなるべく地域の皆さんといろいろな課題を共有しながら話し合っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

どうも今日はありがとうございました。



【市長】

ありがとうございました。これからのコミュニティを考えるとこの中では、地域ごとにいろいろな課題について議論いただき、解決に向かっていただきたいという提案もあつたのですが、けやきコミセンにおかれましては早速そのような取組みも進められているということでございます。地域ごとの課題について議論できるコミュニティを育てていただけるような意見交換の場もいいのではないかと思います。ぜひ若者も含めいろいろな人にご協力いただき、多くの方の参加のもとにこの地域の輪を広げていただきたいと思います。

本日はまことにありがとうございました。



2. 当日いただいたご意見と市の回答・対応方針

(※アンケートでいただいたご意見も含まれます。また、同じ趣旨のご意見については、一部割愛しています。)

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
1	コミセン	<p>コミセンが支え合いステーションとなったことで、方針が書かれた指示書などはあるのか。</p> <p>コミセンに自家発電装置ができたので、コンセントと蛇口を作ってほしい。</p>	<p>「地域支え合いステーション運営の手引き」は、平成26年度にコミュニティ研究連絡会が作成しました。</p> <p>この自家発電装置は、非常時に地下水をくみ上げるために設置しました。</p>
2	防災	<p>避難民の受け入れ方はどうなっているのか。実際の役に立つように、避難訓練では、具体的な目標を立てて取り組んでほしい。</p>	<p>市内の避難所は小・中学校18カ所と都立高校2カ所の計20カ所あり、避難所運営組織は現在10団体が組織されています。各避難所には初動要員として市の職員7名が参集することになっています。初動要員は市災害対策本部の指示を受けて様々な対応を行います。市職員が施設管理者等の協力を得て避難所を開設し、運営は避難所運営組織・自主防災組織、市職員、施設管理者、地域住民、ボランティア等が行うこととなっています。一般の避難者に対しては運営側の手伝いをしてもらうために、地域の防災訓練では、防災トイレの組み立て、備蓄機器の取り扱い等各種訓練を行っており、訓練に参加することにより、防災トイレの組み立て等を知ること为目标として取り組んでいます。</p>
		<p>行政でどこまでできるのか、どこから当事者間で話し合わなければならないのか明確にしてほしい。</p>	<p>市では、基本的なマニュアルである「避難所運営の手引き」を用意しており、市の職員（初動要員）は避難所に参集し、施設管理者、応急危険度判定員の協力を得て避難所の安全確認を行い、避難所の開設を行います。避難所の開設後は、避難所運営組織、自主防災組織、避難者等により運営委員会を立ち上げ、避難所を運営していただくこととなります。</p>
		<p>市全体で防災教育をしてほしい。</p>	<p>現在、防災課では、学校で行われる避難訓練に参加し、防災講話や資器材の取り扱いの説明などを行っています。今後も学校・避難所運営組織と協力して、市全体に広がるよう啓発に努めます。</p>
3	老人ホーム	<p>特別養護老人ホームが少ない。</p>	<p>介護保険制度では、給付額が増加するとそれに伴って保険料も上昇する仕組みとなっています。高齢者人口の増加により今後も介護費用の上昇が見込まれる中で給付と保険料のバランスに配慮しながら整備していく必要があります。</p> <p>武蔵野市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画(27年度～29年度)では、市内に特別養護老人ホームを1施設整備することとしています。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
4	孤独死	一人暮らしの高齢者に対し、孤独死防止に何か働きかけはしているのか。成果はあがっているのか。	市では孤立防止ネットワーク連絡会議を設置し、孤立しがちな世帯に対して、危機発生時に発見・早期対応が確実にできるよう、住宅供給系事業者、ライフライン関係事業者等の民間事業者との協力関係をつくるとともに、地域や警察署・消防署等関係機関も含めた連携体制を構築しています。 成果としては連絡会議のメンバーである新聞販売店や民間配食事業者からの通報による対応が増えています。また、平成26年7月からはひとり暮らし高齢者に対し専門職が原則週1回、決まった曜日・時間帯に電話による安否確認を行う「安心コール事業」や24時間365日、高齢者に関する電話相談を受ける「高齢者なんでも電話相談事業」を実施しています。
5	学校・子ども	子どもの数が増えている状況だが、教師が余裕を持って仕事ができる環境を整えてほしい。	児童・生徒数に応じたクラス数と学級担任数については、都の法令に基づいて決定されますが、授業補助のための各種支援員の配置や、教育推進室の児童・生徒への教育活動に対する支援等により、教員の負担軽減を図ってまいります。
6	市民活動	<p>団体ではないが、地域の運動会を開きたい。小学校の運動場等は団体でないと登録できないなどシステム面でひっかかっているが、協力してほしい。</p> <p>自分が団体設立すると、最後まで自分がやらなければいけないだろうから気が重い。準備しやすいように、市で声掛けをしてほしい。</p>	<p>地域で行うイベントとのことなので、まずは地域の様々な方が活動されているコミュニティ協議会にご相談いただければと思います。</p> <p>団体設立後の運営などに関するご相談は、武蔵野プレイス市民活動支援フロア(〈公財〉武蔵野生涯学習振興事業団が運営)で対応することが可能です。ご相談以外にも、団体運営の助けとなる講座や既存の団体との交流会などを開催しているので武蔵野プレイスをご活用ください。武蔵野プレイスで開催している事業を活用するほかにも、「手助けを求めている」と声を上げて、周囲を巻き込みながら活動していくことも必要だと思われます。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
7	支えあい	地域の人の情報がわかりにくい現代だが、支えあうために、個人情報保護などによる障害を取り除いてほしい。	コミュニティ活動に対する支援を通じて、地域のなかで、顔の見える関係を構築していくことが必要だと考えております。
		資源回収すると、地域の実情が分かりやすくなる。全市的に資源回収でゴミを集めてくれるようにしてほしい。	資源物の再利用推進及びごみ減量を図り市民のごみ問題への関心を高めるために資源物の集団回収を行う住民団体に補助金を支出しています。現在191団体が活動しています。集団回収が地域のコミュニケーションの活性化に資するものであることについて市報・ホームページでの広報を検討しています。
8	人材育成	やさしいまちづくりや支え合いのために、おせっかい養成所をつくっていただきたい。	地域での支え合いを推進していくために地域社協(福祉の会)があり、それぞれに様々な活動を展開していただいています。そのような活動を通して、地域でお互いに気遣い合う風土が、より豊かになればと考えています。
		人材のローテーションを大事にしてほしい。いろいろな人がかかわることで人材育成になる。	活動に関わる人たちが様々な経験を積むためにも、任期等を設けて役員を交代することは望ましいと考えます。担い手不足の課題解決にもつながるものと思います。
9	大学生	大学生と地域と住民を結ぶ取り組みにはどのようなものがあるのか。	ボランティアセンターが設置されている大学では、コミセンの主催事業と連携した活動を行っています。ボランティアセンター武蔵野では市内を中心とした3つの大学のボランティアサークルが参加する「大学間ネットワーク事業」で大学生がプロデュースする地域交流イベントを実施したり、地域から寄せられるボランティアの相談に対して学生ボランティアの紹介を行っています。また、災害ボランティアセンターの開設・運営訓練においても多くの大学生に住民と一緒に参加・協力をいただいています。
		もっと市内の大学生に活躍の場をつくってほしい。	大学のボランティアセンターや大学生団体の活動の可能性などを、随時、コミュニティ協議会や市民活動団体に向けて発信するようにしたいと考えています。また、大学・学生側からの希望があった場合は積極的に地域とつながれるように呼びかけてまいります。
10	ボランティア	ボランティアを受け入れる側の作法や心構えをしっかりとしてほしい。	ボランティアセンター武蔵野ではボランティアを受け入れていただく施設や団体の担当者を対象に研修や懇談会を開催し、ボランティアが活動しやすい環境づくりを進めています。また、紹介を行ったボランティアが初めて活動する際に職員が立ち会うことで、スムーズに活動を開始できるよう、支援を行っています。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
11	中高生	リーダー講習を受けた中高生たちがたくさんいる。防災で活用してほしい。	中学生の活用について地域防災計画に記載はありませんが、学校では防災教育を行っていることから発災時には大きな力になると思います。今後も学校や地域の訓練を通じて防災に関する関心、意識を高め、防災力の向上に努めます。 また、高校生は地域の生徒ばかりではないものの、訓練や啓発を行い、各個人の防災力を高めていきたいと思えます。
12	地域	「市民に必要とされる地域」をもっと明確にしてほしい。	高齢者、障がい者など社会的弱者といわれる方々の見守り・声掛けや、災害時における近隣同士の助け合いなどは、地域の大きな役割の一つです。これからも、このことを丁寧にお伝えしていきます。
13	空き家	空き家に生えている竹やぶをどうにかしてほしい。	空地・空家の樹木等の繁茂については、年1回市内調査を行い現状を把握するとともに、近隣の方からご相談をいただいた際には、公開されている登記簿等の情報をもとに所有者に管理の徹底を指導しています。 宅内から道路へはみ出した生垣や庭木については、樹木の枝が伸びる時期にあわせて市報(5月1日号)で注意を促し、早い時期にせん定をお願いしています。 また、近隣の方からご相談をいただいた際には、所有者の方に対し、樹木の適正な管理をお願いしています。
14	学区	学区変更を柔軟に対応してほしい。	武蔵野市では、居住地により指定校を定めています。これは、学校・家庭・地域が一体となってお子様を見守り育てることが大切と考えているからです。そのため、例外的な理由のみ変更が可能となります。

3. アンケートでいただいた感想

(※アンケートの自由回答欄でいただいた感想のうち、主なものを掲載しています。)

1	災害時の対応などで活躍する場としてコミセンの存在が有意義である。日頃から震災予防のための予行演習をしてはどうか。
2	参加も発言もしやすかった。色々な課題、社会活動があることがわかって視野が広がった。会場は車座方式の方がより良いのではないかとと思う。
3	地域への理解に大変参考になる。参加することで、自分の役割を改めて考えることができた。
4	より身近に市の今後の進路について理解することができました。山積する課題がありますが、順次道筋をつけて下さい。 また、市長の力強い発言に安心しました。今後とも市政のリーダーとして頑張ってもらいたいです。
5	課題が多く、時間が不足していたと思われた。テーマを絞ってフリートーク等もいれたらどうか。
6	コミセン活動に関わっている人たちが、明るく生き活きとされている。こういう人たちが作っている市だから、暮らしやすいすてきな市になっているのだと思わされました。市長と市民が同じ方向を向いているのが感じられるタウンミーティングでした。
7	高齢者の参加が多いが、若い人(特に子育て中の方々)の意見を聞く会を別途設けるべきではないか。
8	本日はとても貴重な体験ができました。市と市民が一体となってミーティングを行うことはとても良い活動だと思いました。私は市民となってまだ日が浅いのですが、武蔵野市の様々なことがわかりました。本日はありがとうございました。
9	大学と地域が連携して、地域を盛り上げる活動を積極的に行っていることや、様々な地域の団体があることを知り驚きました。地域内の活動から、他市との連携ものぞめるような、周りを巻き込む活気ある市として発展されることを期待しております。
※アンケートは傍聴の方も含みます。	

わいわいトーク 「これからのコミュニティ」

- ① 今考えよう 防災のこと
- ② 子どもから高齢者まで
支え合うまちづくり
- ③ 地域で必要な人材育て
- ④ 身近な課題について



第59回せせぎし市長の タウンミーティング

<日時>

2月14日(土) 14:00~16:00

<場所>

けやきコミュニティセンター

武蔵野市吉祥寺北町 5-6-19 TEL 0422-54-8719

ムーバス2号路線 31 けやきコミセン下車

(JR 吉祥寺駅北口発 吉祥寺北西循環)

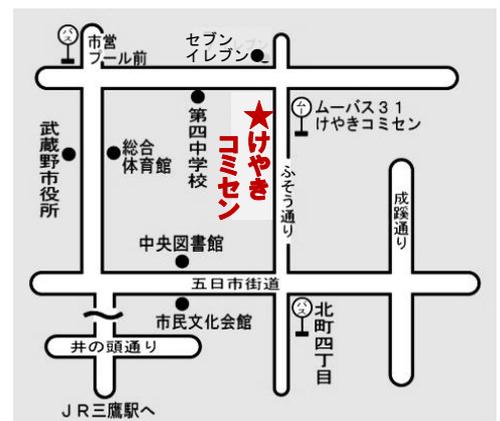
主催 けやきコミュニティ協議会
武蔵野市

- ◆ 当日直接会場へお越しください。
- ◆ お車でのご来場はご遠慮ください。

<問い合わせ先>

武蔵野市 市民活動推進課 市民相談係

TEL:0422-60-1829 FAX:0422-51-2000



第59回

市民と市長のタウンミーティング

わいわいトーク

「これからのコミュニティ」

- ① 今考えよう 防災のこと
- ② 子どもから高齢者まで
支え合うまちづくり
- ③ 地域で必要な人材育て
- ④ 身近な課題について

◎ 当日参加できない方で、上記のことについて、市長にご意見・ご要望のある方は、下記枠内にお書きになり、市役所（7階）市民活動推進課、または各市政センターにお届けいただくか、FAXで市民活動推進課（0422-51-2000）にお送りください。

第59回

地域別
市民と市長のタウンミーティング

報告書

発行 平成27年 8月

武蔵野市 市民部 市民活動推進課
武蔵野市緑町2丁目2番28号
電話(0422)60-1829 (直通)